

知事の学校訪問 3月6日(金)



三重の子どもたちの様子を直接把握するとともに、授業改善の取組など学校現場や教職員の声を聴き、今後の教育行政の推進に生かしていくため、知事が松阪市立花岡小学校を訪問し授業参観や意見交換等を行いました。

「松阪市立花岡小学校」の取組の特徴

花岡小学校は、児童数が600名を越える大規模校で、教職員が一丸となって児童の学力の定着のために授業の工夫を行い、一人ひとりに応じた指導に取り組む学校です。

主な取組として、

- コミュニケーション力を高め、児童同士のつながりを深める、ペア学習、小グループでの学習の推進
- しっかり返事をして最後まではっきり述べるなどの学習規律の徹底や授業の流れを統一する等による、誰もが分かる授業の追求
- 授業のはじめの「めあての提示」と、授業の最後での書くことによる「振り返る活動」の徹底
- 日本語指導が必要な児童に対する「JSLカリキュラムにもとづくわかりやすい授業づくり」（教科指導型日本語指導）の取組

さらに、地域の方々の支援としては、

- 公民館活動での子どもたち対象プログラムの設定、交通安全の見守り、学校図書館支援、授業参観時の幼児の預かり

などがあげられます。このように、地域の積極的な支援も受け、児童一人ひとりの学力向上のためにきめ細かな指導を行っています。

意見交換より

知事： 若い先生の授業力向上のために、自分が持つ経験をどう伝えていきますか。

教諭： 普段から周りの先生たちとはよく情報交換するようにしています。その中で、これまでの実践で得た情報や、教師として自分が大切にしていることなどを伝えるようにしています。また、校内で授業を見せ合って、気づいたことを話し合っています。さらに、自分の教育の原点ともなっている教育研究会で、学校や年齢を越えて切磋琢磨し、その内容を学校で広めています。

県教長： 秋田県では、先生方の自主的な取組が学力向上の成果につながっています。松阪市の教育研究会も更に充実させてください。

知事： 全国学力・学習状況調査では、無解答が多いという課題がありますが、途中で諦めずに取り組むよう、どのような工夫をしていますか。

教諭： みえスタディ・チェック等を活用し、問題を2回はよく読むように声をかけ、すぐにあきらめるのではなく、今の自分が分かる範囲でよいので解答するよう指導しています。

また、日々の授業の中で、考える時間を確保することも大切です。ペアやグループの学習で、自分の考えを伝える経験をすることで、児童は自信をつけていきます。

自分は授業が勝負だと考えているので、一人一人が分かる喜びを感じる経験を積み重ねるような授業を目指しています。

知事： 子どもの可能性を引き出すための保護者や地域住民と連携した取組等はどうですか。

校長： 学校通信で情報発信をしています。また、スクールサポーターによる登下校時の安全見守りや読書ボランティアによる読み聞かせや本の修理など、様々な形で支援をしてもらっています。来年度からの土曜授業でも連携をしていきます。

県教長： コミュニティ・スクールは、学校の文化を変える面もあり、教育的な効果も見られます。松阪市は今も取組を進めてもらっていますが、今後もぜひ積極的に進めてほしいと思います。